

01 ミラノの心臓部

ミラノ国際的な大型見本市や展覧会、株式取引所、金融、産業経済、最先端のデザイン、そして何よりもハイ・ファッションの都市として知られるミラノ。ミラノの有名デザイナーたちは世界の主要都市の目抜きショッピング街を一級品で埋め尽くし、一方世界中からここモンテナポレオーネ通り、スピガ通り、マンゾーニ通りなど地球上で最もおしゃれなブティックに大勢の人々が訪れます。

しかしミラノはそれだけではありません。今日、ファッションやビジネスで忙しい都市ミラノも2世紀前には短いながらイタリアの首都であった時期もあります。古く、キリスト教文明初期にはまさに西ローマ帝国の首都でもありました。歴史を持つ古い都市であり、芸術作品や美術品の傑作の豊富な都市です。ミラノの心臓部であり、キリスト教寺院を代表する大聖堂前にある大きな広場からスタートしましょう。光輝く薄桃色の白大理石で建設されたこのドゥオーモには、何千体にも及ぶ像、巨人、胸像、レリーフ等が配置されています。その一つ一つが大理石に彫刻をほどこした入念な仕事であり、目もくらむほど高い尖塔の上までまるでレース細工のようにつながり、その壮麗さに見る人を感動させるものです。この大聖堂建設のためにミラノの街全体が、聖人も商人も、貴族も庶民もあらゆる人々が貢献しました。建設工事は数世紀にもまたがり決して休むことのない「工場」となったのです。

ドゥオーモの外にももう一つの歴史があります。18世紀に建てられた王宮です。王宮の壮麗な内部では国際的な現代美術展覧会が次々と開催されています。そこから数歩のところには小さく魅惑的なメルカンティ広場があります。この広場は時代を経ても変わらぬ中世の永遠のたたずまいを残しています。のんびりと一休みし、すぐそばに騒がしい世界が存在することを一瞬忘れさせてくれる一角です。

ドゥオーモ広場に戻ると、広場北側の中央部にヴィットリオ・エマヌエル・2世のガレリア入り口があります。ここにはベル・エポックのスピリットが漂っています。このエレガントなガレリアは今日でも「ミラノのよき客間」と呼ばれています。若き日のヘミングウェイも「武器よ去らば」の一節にあるように、ウエイターが行ったり来たりするテーブルの一つに座り、アペリティーヴォを味わっていました。

ガレリアを通り抜けるとスカラ座広場に出ます。ここには素晴らしい中庭を持つ16世紀の建物マリーノ宮、そしてオペラの殿堂、18世紀建築のスカラ座があります。ロッシーニからヴェルディ、フラッチからヌラエフ、カラスからパヴァロッティ、トスカニーニからムーティなどの作曲家、オペラ歌手、アーティスト、バレリーナなど世界的名声を持つスターがここで活躍していきました。そして未来の新しいスターたちが自分のキャリアを世に問うために通る舞台となっています。隣接するスカラ座博物館にある14の展示室には胸像、出版物、肖像、記念品、自筆原稿、舞台衣装や宝飾品、舞台美術、舞台背景などスカラ座とオペラの歴史にまつわるすべてが展示されています。

スカラ座広場の中心には、レオナルド・ダ・ヴィンチ像があり、ルネッサンス期の天才芸術家・科学者であったダ・ヴィンチがミラノに長期間住み、様々な業績を遂げたことを思い起こさせてくれます。ダ・ヴィンチの有名な作品をいくつもミラノで見ることができます。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会修道院食堂にあるフレスコ画の傑作「最後の晩餐」、スフォルツェスコ城のアッセの間にある作品、あるいはレオナルド・ダ・ヴィンチ大展示室を持ちダ・ヴィンチの名前のつけられた興味深い科学技術博物館、ダ・ヴィンチ・コードを所蔵しているアンブロジーナ図書館、あるいはルドビコ・イル・モーロ領主のためにダ・ヴィンチが設計したナヴィーリオ運河など。

今のべた場所はすべて、このドゥオーモ広場から、このミラノの大きな心臓部からすぐそばにあります。ミラノを発見しミラノを愛することを望む方は、是非これらの場所を訪れてください。

Itinerary planned by the
PROVINCIAL AUTHORITY OF MILAN
The guide is available via bluetooth from the Milan
Tourist Office – Piazza Duomo 19/A,
in Italian, English and Japanese versions